

冬春キュウリの持続可能で省力的な防除体系の確立

- 実施期間：令和7～9年度
- 担当部署：病理昆虫部
- 区分：地域密着型研究・県単

○研究内容

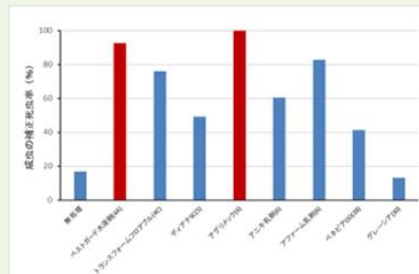
県内のキュウリ産地では、ウイルス病（黄化えそ病、退緑黄化病）及びその媒介虫が安定生産を脅かす最大の要因の一つとなっています。媒介虫のミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミは微小で繁殖力が高く薬剤抵抗性がつきやすいため、現地では防虫ネットや天敵の活用を試みているが、安定した効果は得られていません。近年では、アザミウマの蛹に効果のある微生物農薬が開発され、天敵製剤も従来の製品を改良した製品が販売されています。

そこで、天敵製剤や微生物農薬の有効な使用方法を検討し、薬剤検定で高い効果を示す農薬を併用した新しい防除体系を組み立て、省力的で効果的な防除法の開発を目指します。

供試微小害虫:ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ

- ①効果の高い農薬の選抜
農薬の感受性が低下
薬剤感受性検定の施行

現場での効果的な
薬剤防除につなげる



薬剤効果の比較

- ②改良型天敵製剤による効果検証
従来品のスワルスキーカブリダニ剤



防除効果を検証

改良されたスワルスキープラスUM

新天敵製剤の特性の解明



スワルスキープラスUM

- ③新しい微生物農薬の効果検証
アザミウマの蛹に効果のある
微生物農薬の効果確認

微生物農薬の活用



微生物農薬